



さ の とし お
佐野 寿夫
(公明会)

都市整備
保健福祉



流域治水の貢献、ふじのくに「**田んぼダム※1**」を本市にて推進することについて

問 近年の道路冠水や内水氾濫の発生状況をどう把握しているか。

部長 パトロール巡視の実施や、市民の皆様等からの通報を受けた職員が被災状況の現地確認を行うなどにより状況の把握に努めている。

問 天然のダムとしての治水機能の評価は。

部長 農地の持つ多面的機能を評価し、農業振興との調和を図りながら、流域治水の考え方に基づく総合的な浸水対策に取り組んでいく。

市長 大倉川ダムの奥の地域を防災水資源区域と定めて、開発をさせない、許可しないという方向で進めている。富士川の水が逆流などをしてきた場合には、水田地帯が自然の調整池というか、田んぼの自然のダムというような役割に

もなるのではないかなと考える。



▲V字カットの堰板を設置する

スマートフォンを活用した産婦人科、小児科オンライン相談サービスの導入について

問 本市の妊婦数の推移について

部長 令和3年度は705人、令和4年度は642人、令和5年度は581人、令和6年度は555人、令和7年度は531人。

問 産婦人科・小児科オンライン相談サービスを市として一括契約することについて。

部長 市で実施している母子保健サービスを十分に活用していただき、出産、子育てへの不安解消につなげていただけるよう対応したいと考えている。



あかいけ ひろもと
赤池 弘源
(明和)

環 境
保健福祉



ごみを資源に! 清掃センターの設備を活かした剪定枝の堆肥化について

問 本市はゼロカーボンシティを宣言している。公園を



生成AIで作成

ウッドチップパー作業

管理している振興公社から年間36トンもの剪定枝が、焼却処分されている。既存設備を有効活用し、試験的運用をスタートさせる考えはないか。

部長 ゼロカーボンシティの実現に向けた有効なアイデアの一つである。しかし、市民のニーズが高いとは言い切れない、チップ化の試験的運用をスタートさせるとしても、費用対効果の面で課題が多いものと考えている。

高齢者つながり・生きがい創出事業の死角を問う ～お祝金廃止の戸惑いと移動の壁による孤立を防ぐために～

問 支援は必要ないが、1人で家を出ることに不安がある高齢者への具体的なアプローチについて、市は現状をどのように把握し、対応していくのか。

部長 近所の集まり場所に一緒に歩いていくことも一つの移動支援だと捉えている。社会福祉協議会、地域包括支援センター及び市が連携し、第2層協議体の各地域が情報を共有し、それぞれの地域の課題について、各地域の特色を生かした活動に取り組めるように支援していきたいと考えている。



生成AIで作成

外出に不安を感じる高齢者